

学校教育の努力点と推進計画

1 令和7年度学校努力点主題

多様な人との学び合いの中で学び続ける児童の育成

2 研究のねらい

本校では、昨年度、異学年の児童と学び合う様々な活動を通して、異学年で学び合うよさを感じる児童を育てることができた。自分たちの学習のめあてを達成するために、学級の友達と学ぶだけでなく、異学年の児童から学ぶことで、より深い学びに結び付けることができた。また、相手に応じて発表の工夫をしたり、友達と協力して準備を進めたりする中で、「どうすればよりよい学びになるか」を考えながら学習に取り組むことができた。

名古屋市が示す学びの基本的な考え「学びのコンパス」では、目指したい子どもの姿を「ゆるやかな協働性の中で自立して学び続ける」とし、重視したい三つの学びの姿の一つとして、「多様な人と学び合う」と示されている。

そこで、本校では、今年度、各学年の児童が学習のめあてを達成するために、学級、学年、学校、地域、社会とどのように関わりながら学習を進めると効果的かを考えながら、学び合いを取り入れた学習を行い、多様な人との学び合いの中で学び続ける児童を育てていきたい。

3 研究の重点

本校では、昨年度、様々な学習の中で、異学年の児童との学び合い活動を行ってきた。

前期		後期	
7月	3年（音楽） ↓↑ 4年（総合）	10月	4年（総合） ↓↑ 5年（総合）
	1・2年・ひまわり・にじ（国語） ↓↑ 6年（国語・総合）	11月	ひまわり（自立活動） ↓ にじ
		12月	3年（総合） ↓ 2年
		1月	2年（生活科） ↓↑ 5年（総合）

昨年度の成果として、「異学年の児童とともに、学校行事や児童会行事と関連付けて学び合うことができた」、「異学年という発表の対象がはっきりしていることで、相手に応じた伝え方ができた」などが挙げられた。しかし、課題として、「もっと交流の機会をもつことができればよかった」、「発表対象や発表内容について、教師側からの指定がありすぎるのはいいか」などの意見があった。

そこで、今年度は、「異学年」に限定せず、学級、学年、学校、地域、社会など、各学年の実態や学習内容に応じて、単元のゴール（目標・白表紙と同じで良い）を設定する。目標達成するために多様な人との学び合いを行うとより深い学びに繋がる（人と学べる良さの実感・分からないことを質問できることの大切さなど）ことに気付かせ、多様な人との学び合いの中で学び続ける児童を育成していきたい。

4 研究の方法

- ・ 各学年が、年間を通して、学び合いが効果的だと考えられる単元、めあて、時期、手立て（どのような多様な人と、どのような場面で学び合うか）について計画を立てる。（4月中）
- ・ 実践前と実践後にアンケートを実施し、児童の実態について把握する。
（原則3年生以上とする。1・2年生は実践後のみでも可能とし、実態に応じてアンケートではなく、子どもの眩きや表情などのみでも良いこととする）
- ・ 実践後は、学び合いにつながる手立て、振り返り等をまとめる。

※ 実践内容に合わせて、総合的な学習の時間の年間計画を見直し、学習時間を確保する。

5 研究の予定

- ① 全体会 4/17（木） 14:00～
 - ※ 実践計画・・・・・・・・・・・・・・4月中
 - ※ 前期実践・・・・・・・・・・・・・・5月～7月
 - ※ 前期実践のまとめ・・・・・・・・・・夏季休業中
- ② 中間報告 9月上旬 14:00～
- ③ 後期実践 9月～1月
- ④ 最終報告 2月上旬 14:45～